

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）  
**「確かな学力」を身に付けた生徒の育成**  
 ～実感を伴う「わかる授業」の確立を通して～

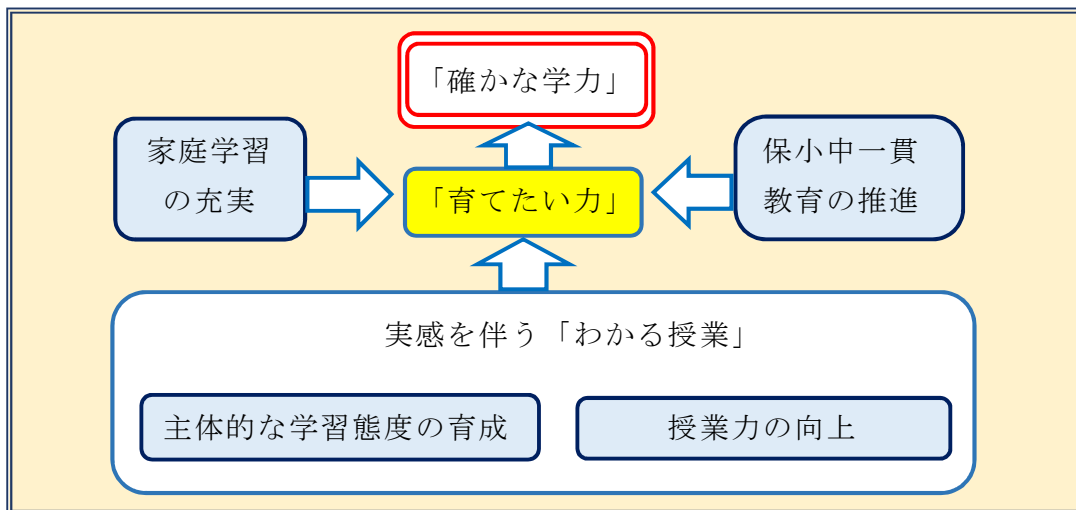
研究目標

生徒ができる喜びや創る喜びを実感できる「わかる授業」を通して、主体的な学びへと発展させていくことで、「確かな学力」を身に付けた生徒の育成につながることを、実践を通して明らかにする。

研究仮説

生徒の喜び（成就感・達成感）を伴った「わかる授業」を目指して、授業を工夫・改善していけば、学力や学習意欲が向上し、主体的な学習態度や家庭学習の習慣化につながり、「確かな学力」を身に付けた生徒が育成できるであろう。

研究の全体構想図



研究の主な実践

- (1) 「全国学力・学習状況調査」の分析ツールを活用し、国語・数学における特徴や生徒質問紙とのクロス集計による特徴の分析
- (2) 数学・英語科における加配教員の活用によるT.T.や少人数指導の実施
- (3) 学習指導支援員、特別支援教育介助員の有効活用（重点的配置）
- (4) 相互授業参観
- (5) 生徒による授業評価
- (6) 毎時間の授業の振り返り（自己評価）
- (7) 家庭学習の習慣化と内容の充実
- (8) 保小中一貫教育の取組

